

# [中吐]XELOX(CAPOX)療法(大腸)

外科: 管理番号 RSC036

処方医:

適応症: 大腸癌

3週間を1コースとして投与を繰り返す

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
オキサリプラチン	●																						●
カペシタビン 朝		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●								
カペシタビン 夕	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●									●

身長: \_\_\_\_\_ cm 体重: \_\_\_\_\_ kg 体表面積 \_\_\_\_\_ m<sup>2</sup>

[投与スケジュール] ( \_\_\_\_\_ コース)

Day1( 月 日)

本管		側管	
薬剤名	投与量	薬剤名	投与量
生食20mL 【ポート使用時】疎通確認 10mL以上のシリンジ使用	10mL		
【内服】ポララミン錠2mg	3錠		
5%ブドウ糖 100mL デキサート注 2mL グラニセトロン注3mg [30分 点滴静注]	1瓶 9.9mg 1管		
		5%ブドウ糖 250mL オキサリプラチン 130mg/m <sup>2</sup> [2時間 点滴静注][炎症性] アレルギー症状注意 複数回以上 ほぼ数分以内	1袋
5%ブドウ糖 50mL [15分 点滴静注]	1瓶		
生食20mL 【ポート使用時】フラッシュ 10mL以上のシリンジ使用	10mL		

DAY2( 月 日)~3( 月 日)

薬剤名	投与量	
デカドロン錠	8mg	1×朝食後

オキサリプラチン  
[今回の投与量] [累積投与量]  
\_\_\_\_\_ mg/body \_\_\_\_\_ mg/body

Day1夕食後( 月 日)~Day15朝食後( 月 日)

薬剤名	投与量	
カペシタビン(C法)		2×朝夕直後
連日服用		
ピドキサール	6錠	3×毎食後

連日投与 手足症候群対策

[投与前・適正使用基準]

1. 脳転移がない
2. TS-1投与中及び投与中止後7日以内の患者ではない
3. 重篤な腎障害がない
4. PSが0~1である
5. 生理機能が十分に保持され、下の基準を満たす。
WBC (/μL) 3500 ≤
PLT (/μL) 10万 ≤
TBIL (mg/dL) <2
GOT (IU/L) ≤100
GPT (IU/L) ≤100
Cr* (mg/dL) ≤1.65

カペシタビン 腎障害時用量調節  
[DLF]  
カペシタビン 手足症候群

カペシタビン投与量

体表面積	1回用量
1. 36㎡未満	1200mg
1. 36㎡以上1. 66㎡未満	1500mg
1. 66㎡以上1. 96㎡未満	1800mg
1. 96㎡以上	2100mg

[カペシタビン:腎障害時の目安と対処法]

Ccr	
51~80	減量不要
30~50	75%減量(減量段階1)
30未満	投与禁忌

[次コース開始基準]

WBC	(/ $\mu$ L)	3000 $\leq$
好中球	(/ $\mu$ L)	1500 $\leq$
Hb	(g/dL)	10 $\leq$
PLT	(/ $\mu$ L)	75000 $\leq$
GOT*	(IU/L)	$\leq$ 83
GPT*	(IU/L)	$\leq$ 105
TBIL	(mg/dL)	<1. 95
Cr	(mg/dL)	$\leq$ 1. 65

\* 肝転移を有する場合はGOT165、GPT210以下

[重大な副作用]

カペシタビン

- ・脱水症状
- ・手足症候群
- ・心障害

[血液毒性]

各コースの投与開始前に副作用のグレードを確認し、いずれかの事象がグレード3以上であれば休薬する。グレード1以下に軽快後投与基準にしたがい投与再開

[非血液毒性]

各コースの投与開始前に副作用のグレードを確認し、いずれかの事象がグレード2以上であれば休薬する。グレード1以下に軽快後投与基準にしたがい投与再開